1、弥生時代から古墳時代へ

前号では、弥生時代での信仰について執筆させていただきました。本号では、古墳時代に焦点をあてて、信仰の歴史を紐解いていきたいと思います。

弥生時代以降、衣食住が安定しはじめ、約1750年前になると、近畿地方（奈良地域）にヤマト王権と呼ばれる連合政権が生まれます。まだ、確立した政治の仕組みができたわけではありませんが、日本に点在する国同士が連合し始めるのが、『古墳時代』と呼んでいる時代になります。

『なぜヤマト王権が日本全体に影響を及ぼしていたと分かったのか?』と疑問があると思いますが、その答えは、全国に点在する古墳がカギとなります。結論から申しますと、『古墳』と呼ばれる土を盛って亡くなった人を埋葬するお墓は、ヤマト王権から全国に広がったとされています。そのため古墳を調べていくことによって、その当時の様子を知る手掛かりを得ることができます。

250年頃	ヤマト王権が生まれる。 ※古墳が造られ始める。
300年頃	朝鮮半島（南部）を倭（日本）が治める。
400年頃	中国（宋）に倭の五王（讃・珍・済・興・武）が貢物を納める。
450年頃	日本最大の前方後円墳（大山古墳あるいは伝仁徳天皇陵）が造られる。 ※横瀬古墳もこの頃に造られる。
527年	九州で磐井（いわい）の乱が起こる。
646年	薄葬令（はくそうれい）とよばれる葬儀に関する法律が施行される。この法律により古墳が造られなくなる。

図1　古墳時代の年表

2、古墳時代は何を崇拝するのか?

古墳時代を研究するひとつに、古墳の形・規模・埋蔵方法の研究が進められています。

その中で、ある一定の地域を治めていた長たる人物を弔うため、古墳を造り葬儀が行われていたことが分かってきました。とりわけ前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）と呼ばれる古墳は、日本最大の規模を誇る古墳（大山古墳あるいは伝仁徳天皇陵）に採用され、日本独自に発展していったお墓でもあります。

また、全国に古墳を造る文化が広がったということで、信仰に関する文化も徐々に統一されていったと考えられています。そのため、信仰が統一されていく過程で、日本に八百万（やおよろず＝数多く）の神様を祭る文化の原型が生まれてきたとも言えます。

3、大崎町の古墳にまつわる信仰

大崎町には、県内2番目の大きさを誇る横瀬古墳があります。この横瀬古墳は、日本最大の古墳が造られた時期が一緒で、古墳の形もよく似ています。また、古墳の上には、円筒埴輪（えんとうはにわ）と呼ばれる埴輪が並べられていて、古墳の脇には、祭祀を行ったと思われる土器群（須恵器＝すえき）が発見されています。大崎町でも古墳時代の信仰の文化・歴史を体験することができます。

写真1　円筒埴輪（横瀬古墳）
※大崎町中央公民館郷土資料展示室にて公開中。

大崎町教育委員会　大野泰輔